

【テーマ1】 創造的なつながり，場づくりを考える

楽しさや新しいことが起こる可能性を増やす，さまざまな個性やスキルを持つ人とつながる機会づくりを考える。

- ・ いろんな人を受け入れる，交流やつながりが多いまちに
- ・ 未来につながるコミュニケーションが活発なまちに
- ・ 遊び，楽しみが充実した地域に
- ・ したいことができる，実現できる地域に（多様性，夢の実現を支える）
- ・ 暮らしを支える地域のつながりがしっかりした地域に

キーワード①	キーワード②	ギャップ（きいろ付箋）	どうすればいいか（あか付箋）
つながりを作る機会，場づくり	みんなが楽しくかかわれるように「つなげる」こと，「つなげる」ための接点づくり	昔は地域での接点，消防と鮎釣りがあったが・・・ 青年団，婦人会がなくなった 役員の負担，軽減したことの良さもある(5)	消防と鮎など，つながる接点を見つける かつては4，5年に一度，地域対抗の運動会があった 一律に「みんな何かやらないと」ではないやり方，関わり方ができるように 丁度いい距離感で，人数・負担をほどほどに，気軽にできるように！！ 顔の見える範囲でのつながりを(7)① 人をつなげるキーマンが重要！（ex.おーらい黒田屋） きっかけなど，先進地のお話を聞くこと（黒田の好事例，黒田では30年前に移住者増の時期があった） 小中一貫になることで，縦のつながりが生まれてほしい 新旧一緒に町をつくった（学校を接点に） 子どもが行くと親もついてくる
		楽しいことと負担のバランスが大事	祭りに京北一体となって熱中できるように（人のつながりづくり） 山国さきがけフェスタ，一年がかりで準備，やりたい人が熱心に取り組んでいる
		地域外から人が集まるイベントに地域内の人が興味を持ってない，共感できない	トレイルランニング，遠方から600人京北に集まった 京都一周トレイル，道づくり
		何を始めると，したい人，したくない人どちらかに偏る(4)	一人ひとりの意識を変えること，多様性を受け入れる地域になること
		人と関わりたくない人もいるが，地域のルールがあるのでつきあいで関わっている人も(4)	みんなそれぞれの興味に基づいて活動ができる機会に
		女性が話せる，活躍できる機会が少ない(5)	女性が活躍する，多様な視点での活動を（黒田はできてる）(7)①
	まちづくりを進める際の多様性の大切さ，「伝える」こと，「やってみる」こと	自分のしたいこと，興味を伝える機会がない 身内のサークル的な動きで広がらない	
		すでに実施されている事例も多い。把握できていない	京北で今起こっていることをしっかり見つけなおす
		良い取組はたくさんあるけど，伝わっていない	合併後，行政に頼るだけでなく，自主活動も生まれてきている（子育て・福祉など）
		現実の良さ，実際にあるものもよさが見えているか？ 足元を広く見る工夫が必要。	福祉のネットワークはすごい，がんばっている 京北に住む人みんなが知る，見つめ直す機会を まちの良いところを知って，京北でも可能な新しいことを始められるように
地域内外で気軽に交流できる場づくり （庁内，6地区，移住者と地元民，若い人と）	近所の人と会う機会が少ない(5) 昔と比べるとつながりが弱まっている(1) 6つの集落の隔りがある 「京北らしい」とくくることで，地域らしさが失われる 地域の統合，ここでのつながりが薄い。格差が大きい，人がいない	京北内外での交流の機会を増やす 地域を越えた交流イベント（復活を） お祭りや地域の活動を通じて他地区の人とつながれるように 京北内の，地域の間での学び合いの機会も 6つの地域が行き来する多様な仕組みを作るには？ 美山は振興会の交流や活動が活発 希望がうまれるつながりを	
	町内会の集まりも簡素化している（この20年くらい）(5) 生活でのつながりが薄れている(6) 旧村意識が強い(6) かつては公民館制度があって，集えていた(1)	創造的な発言ができる場，発信できる機会を お祭り広場などを作る 京北を発信していくこと，いっぶく屋で朝市など 行政の応援，サポートが必要 創造的な仕組みづくりを 宇津銀座，いろんな人にとって居心地の良い場所	
	移住者の方と地元民との交流の場が少ない クラブチームとの連携，開かれていない，若い人との交流の場がない	合併を契機として，内外のつながりを広げる	
新たな移住者を地域で受け入れる態勢づくり	集落ごとに人の受け入れ，定着が大きく異なる いろんな人がいる，そのままお互いに受け入れられるか？ 元々地域にいる人や年齢の方の受け入れの気持ちに足りていない。 つなぐ人がいない，何かかべがあるのではないかと(6)(3) 青年部女性部が壁をなくすきっかけになれば・・・	町会長が柔軟な受け入れをするように（青年団に入らなくても地域の一人になれるように） 地域外の人たちを受け入れるのにも全てではなく同じ職種やブロックの境の者が良いのでは？ 女性部のように年齢差がある組織の上と下のつながりをつく	
	やりたい事だけやると厄介者に思われる 青年団に入らなくても認める雰囲気地域になれば 総論賛成，各論反対の気風	まちの良いところを知り，京北でも可能な新しいことを始められるように お互いうまく引付けたりできるように 地域，個人などでうまく取り組んでいる地域はある	
	移住できる空き家の確保	草刈りなど，田舎暮らしの現状を伝えて販売できるように（田舎暮らしは忙しいことも伝える） 空き家改修ワークショップなどの実施も	
	子どもたちが京北に戻ってくるように，戻ってきたと思うようにするには・・・	町に子どもがいくと9割で戻ってこなくなる 一度地域を出てから戻ろうと思っても，働き口がないので戻れない 仕事を始めたいから京北を出たいという人も 山間地域の仕事に対して理解がないのでは(2)④ 街に集中するような教育をしている，教育で街のことばかり教えている	
	京北で楽しく充実した暮らしができるように	京北は土地は安い生活しやすいのか？ 妻が住みたくなる京北に 少人数の教育を望んで来る人がいる。 子育て目的で，生涯住むのではない	地域それぞれの特色がある。京北らしいとまとめることはどうなの？ 奥さんが楽しいと思ってもらうのがよい，妻が田舎に住みたいと思う魅力を探す 京北に住む，移住に対して助成金が出るようにする

【テーマ2】 これからの働き方を考える

やりがいがあり、生計が立てられる、これからの働き方や仕事づくりを考える。

- ・地域を支える農林業で生計が立てられるように
- ・働きがいのある、自分らしい働き方ができる地域に
- ・多様な働き方ができる、可能性が広がる地域に
- ・地域内でお金が回る、地域内循環でお互いにつながるために
- ・したいことができる、実現できる地域に（多様性、夢の実現を支える）

キーワード①	キーワード②	ギャップ（きいろ付箋）	どうすればいいか（あか付箋）
京北で働く場を確保、人材を確保するために	働く人材を確保したい（人材の確保）	京北に若い人がいない、仕事が多い都会に出ていってしまう(2)③ 働いてほしい人材を求めているが、働きたい人とつながらない（時間帯、曜日があわない）(2)⑤ 今は何をしたいより誰と働くか、「人」を発信する世の中になっている 京北にはサービス業が多いので、土日も働く場所が多い、子育て世帯には、子供と一緒に時間が作れない	人とつながる場所と時間をつくる 京北で働く「人」の発信
	気軽に働く場がほしい（働く場づくり）	賃貸（物件）があれば人材が来る機会になる 職場が少ない、職種のかたより(2)⑥ 働く職場が少ない、選べるほどない(2)⑥ スポットで働くとかができない仕事が多い ワーケーションができる余裕がない カフェにしても、ワークスペースにしても、空き家対策不十分（だが仏壇はゼロにできない）5(3) 京都市との合併により、京北外の会社も仕事（公共工事）を受注できるようになり、在京北の事業所が減った 作業スペース・オフィススペースがない	みんなが関心をもつようなことを一つに絞ってやるのが大 Wifiの安定、使用料 起業と空き家対策の連携 立地条件、都会から自然の距離が近い、京北は市街地から近いので通勤できる点をアピールする
京北で新しい仕事をつくる	起業、新しい仕事を始めるために・・・	成功体験がない(4)⑥ 実はビジネスモデルになっている事業者がいるかもしれない(4)⑥ 相談したい人と支援者がうまく出会えない(6)① 住民が、商工会をおすすめするネットワークがない 営業する人材がいない	創業など京北で事業をしたい人が支援者に求めることを集め アイデア運営側の気力・体力が大事、専属みたいに関われることが大事
		京北に職場がない 福祉施設、道の駅、スーパー以外の働く場所が少ない。 ちよとした農作業のお手伝いの為の求人が気軽にできれば 人が少ない、仕事がない、魅力がない、牛耳っているのがオッサン 何かの店をするために生計が立たない。人数が少なく需要が少ない。 ターン、テレワークが浸透していない 観光地整備、駐車場がありそうでない、道の駅の駐車場も少ない	コワーキングスペースような施設をつくる。その過程で京北にお金を落としてもらおう 地元役場をリタイアされた方々は地域を知るエキスパートの方々だと思うのでその方々がチームで移住や雇用あっせんの窓口業務をして下さったらうれしいかも 注目される自然、保全と活用方法を考えていく 観光地付近の駐車場の案内をわかりやすくする、場の確保、トレイル（コースに来た方）用など
環境を生かした仕事、産業を増やす	農林業が復活してほしい	価格崩壊でコメを売っても利益が出ない 薬代が高い 食べていけるような仕事がない 家の建築方法が変わり、建材が必要とされない 畳の部屋が必要とされない 木で儲けられると思って、植林していない 人が減って、林業に携われない スマート林業は人が減るのでは？仕事がない、先進的地域ではない 自然が管理されていない、人がいない、林業が衰退してる	農家さんが稼げる仕組みを 京都米をメジャーにする 市街地から近いという京北の強みを生かす 野菜・肉などを地元で買ってもらう 寺社仏閣は木を探している、京北の木材を求めているところを探していくこと
	有害鳥獣対策を進めるにはジビエでまちおこしするには	有害鳥獣の駆除が追いつかない、猟師さんの高齢化・・・、加工施設がない(1)⑥ 猟師さんにとって、お金と時間がかかる、取った獣の持って行き場がない、その先のジビエにつながっていない 地域は動物園ではない、害獣と戯れているところではない	
京北での経済の循環をつくる（生計、仕事、生業など）	地域で経済を回していくために	そもそも「お金」じゃない文化、野菜も売るとかではなくお返しに何か手伝うとか、お金じゃないやりとりこそ田舎(4)① お金の循環もよいが、コミュニティ内のモノ、つながりの循環も大切	「京北」と「地域外」をつなげるコミュニケーション ふるさと投資（クラウドファンディング）、農作物をお届け 月に幾らか払う（教育に利用）、その金額分の京北産の米、野菜を送る ベーシックインカム(1)①
	食べる所、夜飲める所問題	週末料理屋など飲み会する場が必要 ファミリーで移動する機会が多いから中華テーブルが受けるのでは？ 家でご飯（夜）を食べる習慣がある、そもそも飲食店の需要があるのかわからない 飲食業、事業として成り立たない 足がない、飲酒運転の不安がある(4)④ Uber eatsはガソリン代が高い	中華料理屋はヒットするかも（中華料理屋は京北にはない！） 飲食設備が整った場所で都市部で営業しているシェフが月1回などで営業してくれる（30人いたら毎日、店があげられ

【テーマ3】 京北らしい、これからのライフスタイルを考える

京北にあるものを活用した、これからの社会のモデルになるようなライフスタイル、地域で暮らし続けられるライフスタイルを考える。

- ・これからの新しい京北へ、地域の生かした暮らしをつくる
- ・地域の良さを受け継ぎ、生かしていく（自然環境）
- ・地域の良さを受け継ぎ、生かしていく（人のつながり、歴史、文化）
- ・地域の良さを継続的に受け継いでいくしくみをつくる
- ・みんなが安心して暮らせる地域に

キーワード①	キーワード②	ギャップ（きいろ付箋）	どうすればいいか（あか付箋）
新たな移住者を地域で受け入れる態勢づくり	昔からのつながりを生かした、これからのつながりづくり（柔軟な受入れ）	集落ごとに人の受入れ、定着が大きく異なる	町会長が柔軟な受入れをするように（青年団に入らなくても地域の一員になれるように）
		いろんな人がいる、そのままお互いに受け入れられる	地域外の人たちを受け入れるのにも全てではなく同じ職種やブロックの塊の者が良いのでは？
		つなぐ人がいない、何かかべがあるのではないかと？6(3)	女性部のように年齢差がある組織の上と下のつながりをつく
		やりたい事だけやると厄介者に思われる	まちの良いところを知り、京北でも可能な新しいことを始められるように
		青年団に入らなくても認める雰囲気地域になれば	お互いうまく引付けたりできるように
	移住できる空き家の確保	空き家の活用、持ち主の理解がなかなか得られない	草刈りなど、田舎暮らしの現状を伝えて販売できるように（田舎暮らしは忙しいことも伝える）
		移住促進を進めているが、家を貸す・売るなどしてくれない	空き家改修ワークショップなどの実施も
	子どもたちが京北に戻ってくるように、戻ってきたいと思うようにするには・・・	町に子どもがいくと9割で戻ってこなくなる	
		一度地域を出てから戻ろうと思っても、働きの口がないので戻れない	
		仕事を始めたいから京北を出たいという人も	林業の魅力、教育で！
京北で楽しく充実した暮らしができるように	山間地域の仕事に対して理解がないのでは？(2)(4)	学校ができないことを教えたい	
	街に集中するような教育をしている、教育で街のことばかり教えている	芸術の教育、おもしろくて自由な発想力をやしなう	
	京北は土地は安い生活しやすいのか？	京北らしいとは何か、また京北らしさを考えることの意味はあるか・・・	
環境を生かした仕事、産業を増やす	農林業が復活してほしい	価格崩壊でコメを売っても利益が出ない	農家さんが稼げる仕組みを
		薬代が高い	京都米をメジャーにする
		食べていけるような仕事がない	市街地から近いという京北の強みを生かす
		家の建築方法が変わり、建材が必要とされない	野菜・肉などを地元で買ってもらう
		畳の部屋が必要とされない	寺社仏閣は木を探している、京北の木材を求めているところを探していくこと
	有害鳥獣対策、ジビエでまちおこしするには	木で儲けられると思って、植林していない	
		人が減って、林業に携われない	
		スマート林業は人が減るのでは？仕事がない、先進的地域ではない	
		自然が管理されていない、人がいない、林業が衰退してる	
		有害鳥獣の駆除が追いつかない、猟師さんの高齢化・・・加工施設がない(1)(6)	
京北での暮らしを、再認識するために	田舎での暮らしは思ったよりも大変（暮らし方）	田舎に暮らしているのに、時間（心）に余裕がない(5)(1)	名所をつくる、桜や紅葉など、大規模なものに！
		オンオフ仕事で切り分けられない、仕事と生活が分けられず子どもの送迎、大変	
	田舎での暮らしは思ったよりも大変（移動他）	ここは右京区京北だけ、京都市内感が全くない、認知度も低い	
		全体として車やバスの移動がほとんど、電車が通っていないので不便（田舎でも電車が通っている地域があるのに）	都会と田舎の共有、京都市内とのつながりを進める
		苦労（たとえば介護など）のために田舎に帰るのは嫌	京北よりもっと不便な地域にいる人のことを思えば、京北は最高の場があると思わないと
京北の良さを受け継いでいくために（京北らしさとはなにか）	京北らしさの継承、生まれ育った故郷を後世へ伝えてほしい、地域の良さを受け継ぎ生かしていきたい	車刈り・溝掃除が苦痛	
		団地では高齢化で人が減っており、維持管理が難しくなっている	
		京北の自治会費は高い	
		地元民が転出している。地域の良さを感じていない、地域の役をもちたがらない	
		一週間に一度も停電するようでは、ちょっと心配	
	京北を知ってもらうためのPR	電気を使うビジネスにとっては、停電があるのは厳しい	
		台風で電気が止まると情報も止まり、困った	
		仕事を始めたいから京北を出たいという人も	
		山のつくり方が継承されていない	
		山つくり方が継承されていない	
京北に来てもらうきっかけづくり	ここで生まれ育った者として、帰ってくるのとほっとするが、京北らしいと感じるものは何なのか？	京北の空・水・土、市内でありながら変わらない良さがあるが、京北にどんなものがあるかしっかり調べてみることも大切	
	京北の良さが具体的に何か話してあげてない？	京北らしくないとどんなものか、考えてみることも大切	
	残っている昔からの暮らし、この土地の「暮らし方」が消えていっているが、伝え方が難しい。どう伝えていけばよ	昔の人の知恵も残していく。今のうちに残していく仕組み(方法)	
	京北らしいこれまでのものから、あたららしいものを作ることも必要	SDGsバレーとして一つのモデルの確立、モデル地域としてつながっていくように	
	田舎料理を教えてもらえるようになってほしい	市内に近い魅力がある、バイクのツーリングの休憩に特化したポイントづくりなども	
京北の良さを受け継いでいくために（京北らしさとはなにか）	田舎暮らしをPRして移住者が増えるように	田舎暮らしは楽でない。覚悟してもらっても必要(知ってもらう)	
	京北に暮らしやすさが伝わっていない。マイナス面が強い	里山デザインのパンフレットの「京北で子育てしている人特集」を作る	
	広報が足りない、実際に京北でしたいことをしている人、夢を実現している人を広く知ってもらう。		
	世間に誇れるものがない、観光資源がない、世界に一番がカルチャー、歴史を知らない、地域の歴史を学ぶ価値が解らない		
	周山城址を生かす	周山城址は個人所有でなかなか意見がまとまらない	
京北に来てもらうきっかけづくり	ファンドや基金で買い取る		
	パーチャルで作る周山城		
	京都市中心部から京北に来る理由がない	お祭りを毎月開く	
	パーベキューでは、お金を落とさず、ごみを落としていく、遊びに来た人にお金を落とさしてもらわないとうから	安い費用でロックライミング（京北にやってくるきっかけとして）	
	川、山は既に子供の遊び場だけ「関西遊び場ガイド」みたいなものには載らない、来てもらったら困る感じ	自然は京北だけでなく、全国どこにもある。京北らしい自然とは？	
京北に来てもらうきっかけづくり	地元と外からの人がタイアップして取り組む	楽しい山になるよう杉から広葉樹に代えていく	
	稼げる自然の在り方を考える	川がきれい環境にも良い、杉林から広葉樹を増やす活動を	
	駐車場代を取って、地元にお金が落ちるようにする		
	楽しい山になるよう杉から広葉樹に代えていく		
	川がきれい環境にも良い、杉林から広葉樹を増やす活動を		

【テーマ4】 京北らしい子育てができる地域を考える

子どもが夢を持って育ち、将来ここで暮らしたいと思えるような子育てや学びの環境を考える。

- ・地域の未来をつくる、充実した教育を受けられる地域に
- ・子どもが安心して育つ、ここで暮らしたいと思える地域に
- ・子育てしやすい、子育て世代が住みたいと思う地域に
- ・若い世代が住みたいと思う、選んでもらえる地域に
- ・楽しく充実した暮らしを支えてくれる地域に（多様性、夢の実現を支える）

キーワード①	キーワード②	ギャップ（きいろ付箋）	どうすればいいか（あか付箋）	
京北の良さを受け継いでいくために（京北らしさとはなにか）	京北らしさの継承、生まれ育った故郷を後世へ伝えてほしい、地域の良さ受け継ぎ生かしていきたい	ここで生まれ育った者として、帰って来るとほっとするが、京北らしいと感じるものは何なのか？ 京北の良さが具体的に何か話しあえてない？ 残っている昔からの暮らし、この土地の「暮らし方」が消えていっているが、伝え方が難しい。どう伝えていけばよいか 京北らしいこれまでのものから、あたらしいものを作ること必要	京北の空・水・土、市内でありながら変わらない良さがあるが、京北にどんなものがあるかしっかり調べてみることも大切 京北らしくないとはどんなものか、考えてみることも大切 昔の人の知恵も残していく。今のうちに残していく仕組み(方法) SDGsバレーとして一つのモデルの確立、モデル地域としてつながっていくように 市内に近い魅力がある、バイクのツーリングの休憩に特化したポイントづくりなども 商工会の建物を移してお店を大きく	
		田舎料理を教えてもらえるようになってほしい		
		田舎らしさをPRして移住者が増えるように	田舎暮らしは楽でない。覚悟してもらおうことも必要(知ってもらう)	
		京北に暮らす良さが伝わっていない。マイナス面が強い	里山デザインのパフレットの「京北で子育てしている人特集」を作る	
	京北を知ってもらうためのPR	広報が足りない。実際に京北でしたいことをしている人、夢を実現している人を広く知ってもらう。		
		世間に誇れるものがない、観光資源がない、世界に一番がなカルチャー、歴史を知らない、地域の歴史を学ぶ価値が解ら		
		周山城址を生かす	周山城址は個人所有でなかなか意見がまとまらない ファンドや基金で買い取る パチャルで作る周山城	
	京北に来てもらうきっかけづくり	京都市中心部から京北に来る理由がない バーベキューでは、お金を落とさず、ごみを落としていく、遊びに来た人にお金を落としてもらわないとうからない 川、山は既に子供の遊び場だけ「関西遊び場ガイド」みたいなものには載らない、来てもらったら困る感じ	お祭りを毎月開く 安い費用でロッククライミング（京北にやってくるきっかけとして） 自然は京北だけでなく、全国どこにもある。京北らしい自然とは？ 地元と外からの人がタイアップして取り組む 稼げる自然の在り方を考える 駐車場代を取って、地元にお金が落ちるようにする 楽しい山になるよう杉から広葉樹に代えていく 川がきれいで環境にも良い、杉林から広葉樹を増やす活動をして人々を増やそう	
教育が充実した京北に向けて	教育インフラを充実させる	小中一貫をチャンスにする。	兼業できる部活を増やす（日々はOKで公式試合はNGでもよい）、外部コーチの招へいなども	
		子育てファミリーが来やすいものが必要。仕事がない、インフラがまいち	自治会が子どもに予算を使ってほしい。	
		子どもと遊ぶ場所も少なく、そこへ行く交通手段がない。ゆつくり集まって遊べない	小回りの利く小型・低料金バス、子ども用のバスの確保など	
		子育てに対する不安が多い。病気、交通、インフラ、学力保証	あげます、ください掲示板、お手伝い(求人)情報、子育て情報を一か所に纏める	
	子どもたちを育てる人材、機会を広げる	高校への通学がとて大変、小中学校の活動でも送迎が必要なのが負担大	京北ふるさとバス以外の交通手段が欲しい。送迎できる関係づくり(子育て以外でもお年寄りにも) 北桑田高校にぜひスクールバス導入を!!黒田や美山もそしてJRバスで登校してくる子達の乗り降りもフォローしてほしい!	
		地域教材がうまくいかされていない、カリキュラムの時間不足、 広げていく人を育てること(小中学校)	くろやま塾のような塾活動と学校の連携(土曜学習)	
		子どもを小中高まで送迎できる様な移動手段の確立が必要	立派な小中学校を活用していくこと 市内から子どもたちを受け入れるように	
		京北の子どもの出生数は9人のみ（今年）	少人数教育という強みをいかしたPR、小中学校での英語教育の充実なども	
	大人と子どもが学び、遊べる場所をつくっていく	子どもの習い事、おけいこの機会がなく、子育ての魅力が乏しいと感じる人もいるのでは？ 教育の機会が少ない。習い事がない、選べる選択肢がない 周りから見ての成功ではなく、自分で満足(成功)している事業者	そろばん、書道、その他、地域の教えられる人が学びの場を提供する→その仕組みを応援する制度→情報をまとめる オンライン授業をする。 休校小学校を活用できるように、インフラ利用のための補助を増やす 外部講師に依頼する(地元の方々)歴史なら〇〇神社の方、農業なら〇〇地区で米作り、京北野菜を作られている方	
		地域の廃校の利用方法をもっと考えてほしい		
		広い面積の地域の割に児童館児童公園もない 新しい学校に立派な図書館はできてありがたいが、不登校の子は行きづらいかも かつては保育の場を野山に移していったが、最近の衛生的なガイドラインがあり、不可能になっている 大人が遊んでいない	官民と共同で運営する児童館を作る 子育ての拠点(街中でいう児童館のようなところ)を作る 野外保育のようなクラブ、サークル活動などでフォローする	
北桑田高校も合わせた地域教育を充実させる	北桑田高校のフォレスト科の寮が定員を超えており入学できない人がいる。生活する場所がなく来ない人がいる。	キーになるのは北桑田高校、北桑田高校のフォレスト科を目指して、子どもに帰ってきてもらう		
	高校がとて魅力的なのにあまり知られていない。京都フォレスト科だけでなく、普通科もとても良い 高校の学生寮の規模を広げる事の話が進んでいない	北桑田高校のHPが先生主導ではなく生徒主導のため充実している 生徒会インスタはあるがclosedなのでopenなもの!		